

経営比較分析表（平成28年度決算）

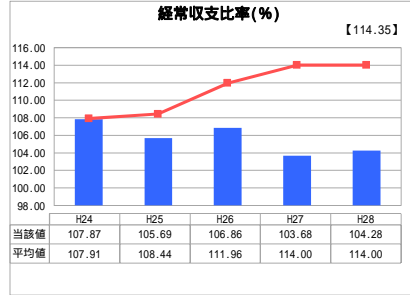
佐賀県 唐津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	57.42	88.99	3,516	

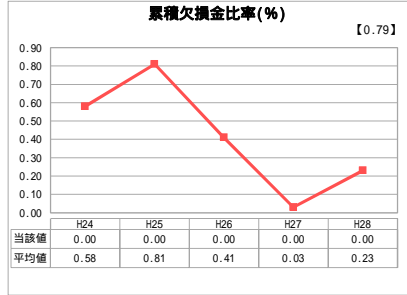
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
125,001	487.58	256.37
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
110,727	187.50	590.54

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

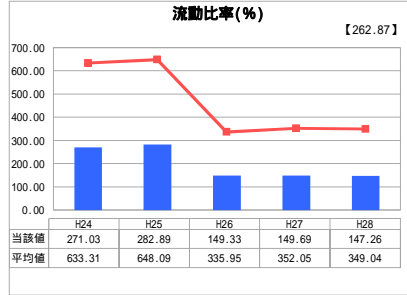
1. 経営の健全性・効率性



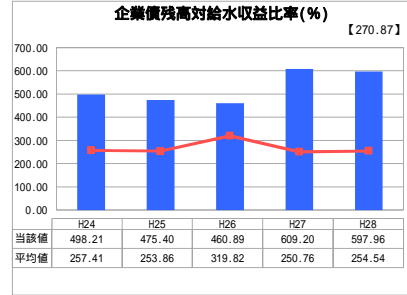
「経常損益」



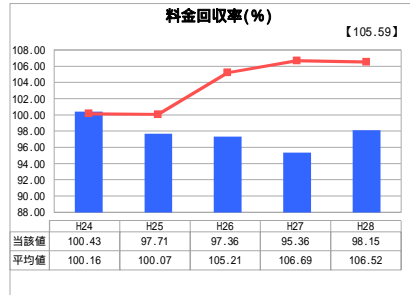
「累積欠損」



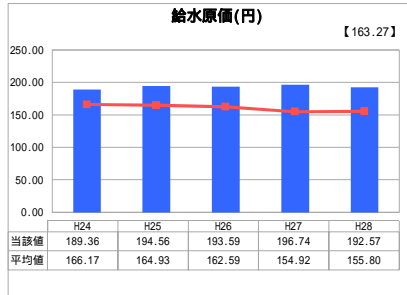
「支払能力」



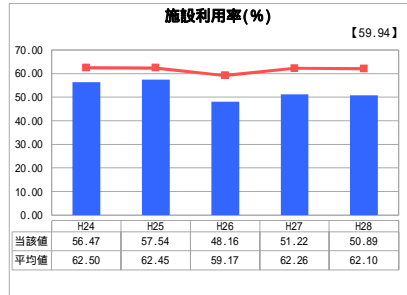
「債務残高」



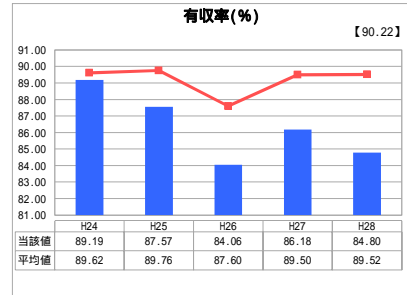
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

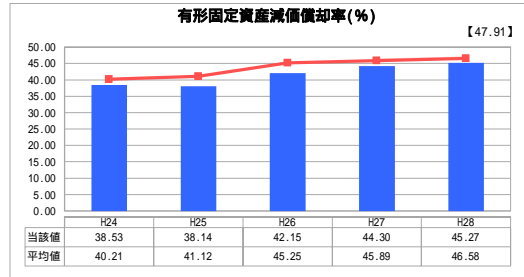


「施設の効率性」

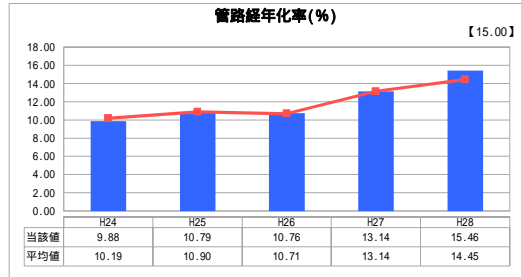


「供給した配水量の効率性」

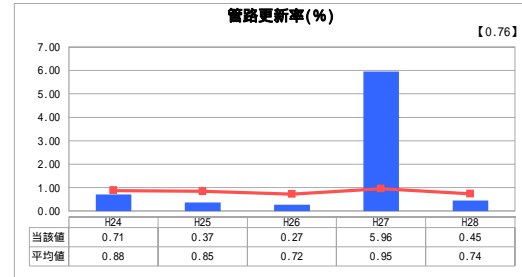
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を上回っており、累積欠損金も発生しておらず、経常損益上は健全な経営状況である。
 流動比率は平均値に比べ低いが、資金運用に支障をきたす状態ではない。
 企業債残高対給水収益比率は簡易水道統合整備事業に要した多くの資金を企業債で賄ってきたため、平均値に比べ著しく高くなっている。
 料金回収率が100%を下回っており、給水に係る費用が給水収益だけでは賄えておらず、給水原価は給水区域が広く、複数の離島を有しているため、費用がかかることから平均値より高くなっている。
 施設利用率は給水区域が広いため施設が多いことと、有収率は管路延長が長い分漏水が多いことなどからともに平均値を下回っている。
 以上のことから、経常損益上は健全な経営状況であるものの、給水に係る費用が給水収益だけでは賄えておらず、老朽化した管路や水道施設の大量更新時期を迎えるため、適切な料金収入の確保が必要である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は平均的な数値で推移しているが、管路経年率は平均値より若干高く、管路更新率は平均値より低くなっていることから、管路については経年化が進んでいる。
 平成28年度に策定した老朽更新基本計画に基づき、平成30年度から老朽管の更新を実施する予定である。

全体総括

当市では人口減少などにより収入の減少傾向が続いている一方で、施設の老朽化が進んでいる。施設の更新や耐震化には多大な費用が必要となるため、今後の経営状況はますます厳しいものとなることが見込まれる。良質な飲料水の安定供給と安定した経営の持続のため、平成29年度に水道ビジョン及び経営戦略を策定した。また、平成30年度には料金改定を行うが、今後も多大な更新費用が必要のため、投資と財政のバランスを考慮した料金見直しの検討を定期的に行う必要がある。